

ジアヴァンナ・ハンプトン

2014年12月4日

SL アウトカムエッセイ

日本語 320S

私の上級クラスのサービスラーニングのコースでは、私はよく計画されたサービス活動によってコースの学習経過段階を経て明確な成果を得ることができました。私の文化活動やミニプロジェクトには多くの日本人やマーティン・ルーサー・キング・ジュニア小学校の私が担当する4年生の生徒が含まれていました。私は、重要な毎回の報告書、ディスカッション、演習、書類作成、口頭またはメディアプレゼンテーションを通してサービスラーニングの小学校4年生の先生を務め、学習成果へと結びつけました。サービスラーニングコースを通して、私は週に1回4時間、MLK Jr.の小学校コミュニティに通い、サービスラーニングに務めていました。私は、ここで週に1回4時間のサイトでの活動の学習成果について話します。私は自己と社会意識やサービス、社会的責任、地域社会と社会正義、多文化コミュニティの構築、および市民参加について分析しました。私は、生徒達と活動をすることでこれを実証しました。コースの学習成果は、JAPN 320Sを受講したからこそ得られるものでした。

自己と社会意識について考えるために、私は生徒たちのアイデンティティが持つそれぞれの社会的文化やコミュニティの特性を理解する方法を見つけなければなりません。彼らは、小学生であり、家庭や学校での活動があります。私の4年生のグループは、全員ヒスパニック

けい系でした。彼らは、同じ文化を共有<sup>きょうゆう</sup>し、信念<sup>しんねん</sup>、価値観<sup>かちかん</sup>や時にはパースペクティブも似たものを持っていました。一部の生徒<sup>いちぶ</sup>は、特定<sup>とくてい</sup>の日本のテーマについて異なる意見<sup>いけん</sup>を持っていました。例えば、私の最初のレッスン<sup>かいし</sup>を開始する前に、少しグループプロジェクトとして、彼らに日本のものと考えられるものを列挙してもらいました。すべての生徒<sup>すし</sup>が寿司<sup>にんじゃ</sup>や忍者<sup>りゅう</sup>、龍、ドラゴンボールZ、アニメなどを列挙しました。このように彼らは、日本の文化的側面<sup>そくめん</sup>の多くを知っていました。しかし、日本の文化を中国のもの、ベトナムのもの<sup>こんどう</sup>とで混同している回答も多かったです。たとえば、ラーメン<sup>や</sup>や焼きそば、中国の映画タイトル、ベトナム料理などについて回答する生徒もいました。日本文化とは何か、何がそうでないかを教えるために、私はすべての生徒とともに、自分の仮定<sup>かてい</sup>、価値観<sup>かちかん</sup>や固定観念<sup>こていかんねん</sup>と一緒に分析する必要がありました。なので、このアクティビティをすることは必要だったと思います。グループの活動<sup>かつどう</sup>やゲームは、すべての生徒が参加できるもの、そして取り残される生徒が出ないようなものを計画しました。私たちは彼らとともに常<sup>つね</sup>に日本文化とスペイン文化を比較<sup>ひかく</sup>し、その類似点<sup>るいじてん</sup>と違いを考えました。スペイン文化と常に比較しながら日本文化を教えていたので、生徒は私にスペイン文化について多くのことを教えてくれました。彼らは様々な物事について考え、自分の持つアイデンティティについて分析<sup>じこ</sup>しました。自己<sup>じこ</sup>と社会意識<sup>しゃかいいしき</sup>、サービスおよび社会的責任<sup>しゃかいてきせきにん</sup>について少しでも触れることは、生徒にとって大きな意味を成したと思います。それは、私が教えた日本文化のこの知識<sup>ちしき</sup>は、生徒の長期的幸福<sup>ちようきてきこうふく</sup>に貢献<sup>こうけん</sup>する方法についての理解<sup>ふか</sup>を深め、私のサービスと

社会的責任<sup>しゃかいてきせきにん</sup>についての理解を深めました。私が日本文化を教えるからといって、ランダムにトピックを選び、生徒達に教えることはできません。私は目的<sup>もくてき</sup>を持っている必要がありました。

生徒一人一人が、日本人の習慣や礼儀など、日本の倫理的な行動<sup>りんりてき こうどう きりつ</sup>と規律<sup>りかい</sup>について理解し、それらの社会福祉<sup>しゃかいふくし</sup>を開発<sup>かいはつ</sup>できるものでなければならなりません。例えば、各<sup>かく</sup>レッスンの始めに、私は、レッスンをする舞台を設定する必要がありました。言い換えれば、生徒たちに2つの文化の関係を明確にして、これから実行するレッスンについて理解してもらう必要がありました。私は生徒に生徒の持つ文化と日本の文化とが共通する何かを言わなければならなりません。1レッスンで、私は規律<sup>きりつ</sup>と日本人の幸福<sup>こうふく</sup>を確立<sup>かくりつ</sup>するため、生徒に「きりつ、れい、ちゃくせき」を教えました。まず始めに私は、生徒が先生に挨拶<sup>あいさつ</sup>をするために授業の始めに何をすべきか尋ねました。生徒は「何もしない。」と答えました。私のサイトでは教師やCPYのスタッフが度々生徒達を静かにするために、大声をあげることがあります。私は、それは規律<sup>きりつ</sup>の欠如<sup>けつじょ</sup>のサインだと思います。日本の習慣や礼儀について学習することで、生徒たちの短期的な幸福<sup>たんきてき こうふく</sup>、プロの行動<sup>こうどう</sup>やその行動に寄与<sup>きよ</sup>することができます。サービス・ラーニングで難しかったことは、私が簡単に生徒達に理解できるレッスンプランを開発<sup>かいはつ</sup>する必要があったということです。私のグループの生徒は、集中力が短時間しか持たず、彼らの行動<sup>こうどう</sup>は非常に活発<sup>かつぱつ</sup>でした。彼らは、多くのエネルギーを持っていました。彼らが穏やかな状態を維持し、彼らに日本文化を伝え、私のレッスンの目的<sup>もくてき</sup>を果たすことが私の責任<sup>せきにん</sup>でした。私が、生徒たち

に知識を<sup>ていきょう</sup>提供し、目的を<sup>たっせい</sup>達成するためには、コミュニティと<sup>しゃかいせいぎ</sup>社会正義の<sup>しゅだん</sup>手段を<sup>かくりつ</sup>確立する  
必要がありました。

私の<sup>きょうじゆ</sup>教授は私がこの授業で学ぶトピックについて理解を深めるために必要なすべての資料を

<sup>ていきょう</sup>提供してくださいました。たとえば、私たちがクラスで読んだ記事はコミュニティや社会に

おける<sup>ふこうへい</sup>社会正義および不公平、そして私の<sup>ぶんや</sup>教授の分野での専門的知識です。その中でも一つの

<sup>きじ</sup>記事は間違いなく記事を読み取るための助けになる記事でした。そして、その記事は私に割り

当てられました。その記事は、<sup>いってい</sup>一定の<sup>ちいきしゃかい</sup>地域社会と<sup>しゃかいせいぎ</sup>社会正義の<sup>たっせい</sup>達成についてでした。私は、

<sup>しゃかいせいぎ</sup>社会正義の<sup>かい</sup>枠組みを<sup>とくてい</sup>介して<sup>とうけい</sup>特定のコミュニティの人口統計、社会文化的ダイナミクスと

<sup>しさん</sup>資産について<sup>しら</sup>調べました。各記事は、コミュニティや<sup>しゃかいもんだい</sup>社会問題と<sup>しゃかいせいぎ</sup>社会正義がどのように

人々がお互いを受け入れる<sup>きょうつうきばん</sup>共通基盤を<sup>かくりつ</sup>確立したかの例について<sup>れい</sup>説明して<sup>せつめい</sup>していました。この授

業で読んだ記事を参考にして、私は<sup>てっていき</sup>徹底的に MLK ジュニア小学校のコミュニティの問題と生

徒を<sup>けんとう</sup>検討し、いかなる<sup>さべつ</sup>差別、システム全体の不公平、いかなる<sup>しゃかいてきふせいぎ</sup>社会的不正義について<sup>ぶんせき</sup>分析し

ました。私は他の<sup>しゅうきょう</sup>宗教の受け入れを積極的にしていることを寺院や教会を見て、気付いま

した。そして、サイトの周りに寺院や教会があるということは、多くの人々が信教を持っていて、

そこで互いに支え合えるコミュニティが成されていることを意味します。しかし、私は生徒間でのいじめや差別に気づきました。いじめや差別が起こるか起こらないかは子供達の周り

の大人が大きく<sup>えいきょう</sup>影響します。なので、現在生徒間でのいじめや差別を発生させる原因になっ

ている大人の影響を子供に伝達しないようにする必要があります。MLK ジュニアの CPY 機関は  
 日々、生徒に人への尊敬を思い出させる素晴らしいプログラムです。CPY は、最年少、一年  
 生からの生徒に尊敬と反差別を教えるために 6 つの規則を定めています。ヒスパニックレー  
 スは大多数であるため、CPY の社会正義の枠組みは非常に固く、彼らが CSU モントレーベイ  
 日本語クラスからのボランティアを受け入れることは彼らの異文化の知識を広げる良い手助け  
 になります。CPY の 6 つのルールと私が生徒達と一緒に過ごした日本文化の授業の時間のおか  
 げで、私はこのクラスの多文化まちづくりと市民参加というアウトカムを達成しました。

日本文化のさまざまな側面を伝える様々なレッスンプランから、私は大人の CPY スタッフと  
 臨機応変に対応し、多様な個人、グループで作業することを学びました。私のサービスサイ  
 トグループは、少しの日本文化の知識と少しのスペイン文化の知識を持っていました。その中  
 で、私は日本文化について生徒に教え、異文化コミュニケーションスキルとその相互関係を  
 実証し、間違いなく私の反応の良さが社会とサービス作業を助けてました。生徒と私がバイ  
 リンガルであることから、私たちはお互いを理解して助け合えた。そして、私は、生徒達と情  
 報交換をすることと日本文化と生徒達の普段の家での家族や周囲の大人へすべき振る舞い方を  
 生徒達に深く理解させることの為に私たちのレッスンを役立てました。私は、私達のレッスン  
 中は、生徒間での不正義な行為に敏感に気付きました。ここでも、生徒はスペイン語で話し、  
 彼らの言うスペイン語を理解できない職員や生徒に何を言ったのか説明しませんでした。

こういった行為はスペイン語を知らない生徒と大人とで分裂を起こします。別の例は、一部の

4年生の生徒が、私が彼らに助言<sup>じょげん</sup>していたため、いくつかの活動<sup>かつどう</sup>についてより知っていました

た。彼らは彼らの戦略<sup>せんりやく</sup>を実践するためにより経験豊富<sup>ほうふ</sup>になりたがるので、彼らは改善<sup>かいぜん</sup>する

ことができますがその中でも欲<sup>よく</sup>と嫉妬<sup>しつと</sup>はコミュニティの中に少しですが、存在していました。

私は、個人的<sup>こじんてき</sup>、専門的<sup>せんもんてき</sup>、および機関<sup>きかん</sup>の戦略<sup>せんりやく</sup>はすべてのレベルのすべての生徒が参加<sup>さんか</sup>できるもの

のにする必要がありました。例えば、レッスン6で、私のグループと私はおにぎりを作る方法

を子供たちを教えました。おにぎりを作る手順<sup>てじゆん</sup>を教える際に、一部の生徒は迅速<sup>じんそく</sup>に対応する

ことができましたが、一部の生徒はもう少し指導<sup>しどう</sup>を必要としていました。したがって、私のグ

ループはどうしたらおにぎりが簡単につくれるのか探りました。私はいつもコミュニティの

構築<sup>こうちく</sup>と関与<sup>かんよ</sup>を支援<sup>しえん</sup>する担当でした。すべてのレッスンが簡単だった場合<sup>ばあい</sup>、彼らにはそれが本当

に挑戦<sup>ちようせん</sup>する必要があったものかわからないです。私は彼らが彼らの能力<sup>のうりょく</sup>を最大限<sup>さいだいげん</sup>に発

揮できるようにしたかったです。このサービス・ラーニングクラスのための私の教授<sup>きようじゆ</sup>からの

材料<sup>ざいりょう</sup>や指導<sup>しどう</sup>のおかげで、私はそれが先生の靴でも、彼らは毎日どのように感じるか、彼らが

通過<sup>つうか</sup>するかを知るためにどのようなものか体験<sup>たいけん</sup>することができました。

私は私の日本語の知識<sup>ちしき</sup>と私の文化の知識<sup>ちしき</sup>を活かして、4年生の生徒を教えるために、教育<sup>きょういく</sup>の

キャリアフィールドに関連<sup>かんれん</sup>した社会サービスの課題<sup>かだい</sup>を検討<sup>けんとう</sup>します。MLK Jr.の小学校<sup>せつてい</sup>の設定

はヒスパニックが大半のコミュニティということです。私は、その生徒の設定を超えて

多言語・多文化コミュニティに参加するためにはどのようなものが必要かについての知識を

強化しました。毎週、生徒は、前のレッスンを覚えていることを私にみせたりします。このよ

うに、各生徒は、自宅で私のレッスン活動に取り組み、同様に、他の機会にも彼らの友人と

取り組んでいます。私の目標は、生徒が固定観念に縛られることなく、差別と、類似点とす

べての背景を持つ人々の違いを認識し、判断することなく、それらを受け入れる手助けす

ることでした。また、これを念頭に置いて、子供たちが生活し、簡単に多文化環境に適応

することを学べるようにすることでした。私は、彼らは私が提供され、実証され、非常

に長い時間のために、おそらく他の人に渡された情報を覚えているだろう知っています。

生徒は現在、彼らの個人的な濃縮のための言語や文化の知識を使用しています。生徒は、

比較し、独自の文化と日本文化の様々な要素のコントラストの手段を拡大した。彼らは、

彼らが私から学んだ多くの規律になった知識によって接続を作り始めました。生徒は、日本

語とスペイン語以外の他の文化について学ば熱心した。私は今、シチリア、アイルランド、

アメリカ、彼らはスペイン語と日本文化との間で、私の価値観や文化の違いを知ることに関心

を持っていた。一般的にはコースでは、私のクラスメートと私は、多くの場合、私たちが読

んで各記事についてのクラス討論に従事します。そこに、私は日本語でコミュニケーション

スキルを<sup>はつき</sup>発揮することができました。ディスカッション、<sup>か</sup>書き込みと<sup>こ</sup>読み出し、およびプレゼンテーションを通じて、私が日本語で私の<sup>たいじん</sup>対人、<sup>かいしゃく</sup>解釈とプレゼンテーション<sup>ぎのう</sup>技能を<sup>かくだい</sup>拡大しました。彼らは毎週新しい日本語の<sup>たんご</sup>単語を<sup>まな</sup>学んだ生徒、彼らの<sup>げんご</sup>言語を<sup>かくだい</sup>拡大してきました。また、各レッスンの後、生徒はレッスンで学んだことを<sup>ていじ</sup>提示するように<sup>すす</sup>勧められました。最初は彼らは<sup>は</sup>恥ずかしがり屋だったと<sup>ぶたいきょうふしょう</sup>舞台恐怖症は<sup>ひ</sup>わずか健忘を引き起こしましたが、3週間で、生徒が<sup>おおはば</sup>大幅に<sup>かいぜん</sup>改善され、<sup>ていじ</sup>提示を楽しみにし始めました。私は<sup>く</sup>繰り返し、<sup>かえ</sup>示された、異なる日本人の文化的<sup>かんしゅう</sup>慣習やコミュニティで日本語や日本文化を教えるを<sup>とお</sup>通してパースペクティブです。日本は、彼らのパースペクティブが時々少し異なっている<sup>りゆう</sup>理由であるアメリカと同じくらい<sup>たよう</sup>多様ではありません。生徒は、日本人パースペクティブは、彼らが私が<sup>つと</sup>努め目的である私のサービスラーニングレッスンプランを<sup>つう</sup>通じて<sup>みち</sup>だった道<sup>りゆう</sup>だった理由を理解することができました。私は、このサービスの<sup>がくしゅうけいけん</sup>学習経験が本当にやる気を起こさなかった、前が、<sup>しゃかいほうし</sup>社会奉仕を行って、私のための<sup>せんざいてき</sup>潜在的なキャリアパスでしてきました。私はそれは小さな変化だとしても、私はこれらの子どもたちの生活の違いを作ることができたことを自分自身<sup>じしん</sup>について良い感じます。このクラスは、<sup>そんけい</sup>尊敬と受け入れを教えました。